

平成15年度畜産草地研究所評価委員会開催される

平成15年度畜産草地研究所評価委員会が平成16年3月17日に畜産草地研究所(筑波)の大会議室で開催されました。

評価委員には、家畜増殖・生理、家畜育種、草地・飼料利用・機械作業の専門家として、それぞれ東京農業大学名誉教授 渡邊誠喜氏、農林漁業金融公庫技術参与 三上仁志氏、(株)クボタ営農推進グループ部長 加藤明治氏、公立試験研究機関関係者として全国畜産関係場所長会長(千葉県畜産総合研究センター長) 松田延儀氏、消費者関係として日本生活協同組合連合会くらしと商品研究室長 小沢理恵子氏、有識者として農林水産省生産局畜産振興課長 塩田忠氏、の6名になっていただきました。

横内理事から独立行政法人における評価の体系とねらいの説明があり、忌憚のないご意見と評価をお願いする旨の挨拶がありました。引き続き、委員の互選で渡邊誠喜氏が委員長に選出され、以後、委員長に議事を進行していただきました。

企画調整部長から、中期計画の「Ⅰ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置」および「Ⅱ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置」について本年度に実施した主な項目を説明しました。また、総務部長から、「Ⅲ 予算(人件費の見積りを含む。)資金計画」、「Ⅶ-1 施設

及び設備に関する計画」および「Ⅶ-2 人事に関する計画(人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。)」の本年度の実施状況を説明しました。研究課題の評価では、各研究部長が平成15年度に得られた主な研究成果とその活用面を中心に説明しました。

以上の研究所からの説明に対して、評価委員から自由にご意見をいただきました。主な指摘は、科研費等の競争的資金獲得については、これまでも積極的に取り組み、採択率も高いが、さらに応募件数の増加に努めていただきたい。日本飼養標準や日本標準飼料成分表の策定など、わが国の畜産農家が活用しうる技術開発に向けた基盤データの整備や畜産学術向上のため、国内の中心的、牽引的役割を果たすよう、一層努力していただきたい。一般市民に対する分かりやすい広報、理科教育振興への畜産研究を通じた協力など、わが国の畜産に関する技術開発や学術の発展について、国民の理解を深めるように努めていただきたい。国立の試験場時代から引き継いだ施設等が老朽化しているようであるが、良い研究成果を挙げるために、施設の老朽化に対して、適切な対応策を講じていただきたい、などでした。

評価委員からの貴重な意見を参考にして、私たちの業務と研究の進め方を点検、改善していくことが大切です。(企画調整部研究調整官 古川 力)



平成15年度畜産草地研究所評価委員



開会の挨拶をする横内理事